

目指す「明野の15歳の子ども像」

【何ができるようになるか】

①自らの人生を切り拓くための「**学びを活かす力の向上**」

②自立の基盤となる「**自主性・主体性の育成**」

2 学期検証結果

【どのように学ぶか～策と検証項目～】

所管部	どのように学ぶか	策	検証項目と目標	青字: 校長から 赤字: 数値目標 (): 2 学期集計結果
学 習	学びの充実	① 苫小牧市共通取組事項の徹底（焦点化・イメージ化・視覚化） →学習の見通しを持たせ、わかる授業の実践 ② 個別最適な学び、協働的な学びの充実による、主体的・対話的で深い学びの実現 →学習形態（個・ペア・グループ）の工夫…言語活動	① 学習のねらいと内容が理解できている 【生徒アンケート(1)】 1 学期に比べ肯定的回答の割合が向上しており、望ましい状況であると言える。 【今後意識すべき視点】 ・身に付けさせる資質・能力の明確化 ・学習内容の理解を促す工夫 ・思考、出力させる時間の確保 ・ICT の積極的、効果的な活用 ・校内研究の「重点」から「前提」へ →誰が見ても、授業内容や意図が分かる授業 ② 授業では、生徒同士の活動や他の人との意見交流を通じて、考えや理解が深まっている。 【生徒アンケート(2)】 授業において、他者と対話する活動が習慣化しており、本来的な学力の向上に繋がると考えている。 【今後意識すべき視点】 ・意見の出力（output）の多様化 →forms、対面など（学習形態の変化） ・すべての教科、領域での実践 →主体性を育み、深い学びに繋げるために	① 1・2と回答する生徒 →80%以上 (93.7%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 40.0%→38.8% ② 1・2と回答する生徒 →80%以上 (98.4%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 57.2%→61.5%
	学びの保障	③ タブレットPCの効果的な活用 ・ICT 機器の有効活用をテーマとした校内研修の実施 ・ICT 機器活用を位置付けた指導案・指導計画作成（継続） ④ e ライブラリ活用による家庭学習習慣定着の促進及び不登校対策への活用	③ 授業で ICT 機器をほぼ毎日活用している 【生徒アンケート(3)】 データとしては良好であるが、 <u>教科別にアンケートを行う必要性を感じている。</u> 【今後意識すべき視点】 ・ICT を使うことが目的ではなく、学習効果、学習効率を高めるための活用であること ・教科の特性を踏まえ、活用場面、活用方法について、個別に研修を継続すること ・全国学調、チャレンジテストのCBT化に向け、 <u>全員がスキルの習得を図ること</u> →MEXCBT、eポータル、L-GATE ・ <u>定期テストの一部をCBT化できないか</u> ④ e ライブラリが補充的な学習のツールとして活用できている【生徒アンケート(4)】 業間や授業時間での活用や教科の課題としての活用により肯定的回答が向上している。今後、タブレット PC の持ち帰り（試験運用）が行われる中で、日常的な持ち帰りも視野に入れて検証していく必要がある。	③ 1・2と回答する生徒 →50%以上 (90.7%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 28.8%→38.4% ④ 1・2と回答する生徒 →50%以上 (74.3%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 22.7%→37.9%
生 活	自己理解・自己管理能力の育成	① 「苫小牧市情報機器の利用の約束」の普及啓発と情報モラルについての指導と推進 ② 情報機器利用を含めた望ましい時間の使い方（生活リズム）の指導	① スマホやタブレット、ゲーム器等を使用するときのルールを家族で決めている。【生徒アンケート(5)】 継続的な情報モラル指導が回答率の維持に繋がっているものの、SNS を介した重大事故に至る可能性がある事例が発生していることから、 家庭への啓発や、人権を意識させた指導が必要 である。 【意識すべき視点】 ・情報モラル指導は道徳教育の一環として行っていること ・今後も継続的な指導が必要だがマナー化してもいけない（指導の目的をこちらがしっかりとおさえること（形骸化させない）） →いじめ防止、性犯罪防止等 ② スマホやタブレット、ゲーム器等は時間帯や使用時間を考えて使っている。【生徒アンケート(6)】 時間の管理を含めた 生活習慣を振り返らせる取組 が継続的に必要である。自己管理を徹底することが生徒の 自律・自立 につながる。スマホやゲームへの依存が心身に与える影響は大きい。①と同様、家庭への啓発は継続しなければならない。	① 1・2と回答する生徒 →80%以上 (68.7%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 41.6%→41.0% (前年度同時期 37.8%) ② 1・2と回答する生徒 →80%以上 (60.3%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 37.2%→28.8%

	<p>③ 健康や安全に留意した生活を送るための啓発 →事故防止、防災、生活習慣、疾病予防</p>	<p>③ 日常の体温測定など、自分の健康について管理する意識が高まっている。【生徒アンケート(11)】 学校祭終了後、一部の学年、学級で閉鎖措置を行ったが、それ以降、閉鎖措置をせずに行っている。これまでの感染予防対策が功を奏している証左である。引き続き、教育活動が円滑に行われるよう、健康・安全指導にご尽力いただきたい。インフルエンザや「慣れ」に注意！</p>	<p>③ 1・2と回答する生徒 →80%以上 (84.6%) 2学期…1学期の回答率維持もしくは上回る (1学期調査 89.4%)</p>																																																																
いじめの防止・根絶	<p>④ 教育相談やいじめに関する調査等の実施による早期発見、 →校内連携の強化による初期対応の迅速化</p>	<p>④ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。【いじめの把握のためのアンケート調査 調査票 1-17】 11月の調査では、嫌な思いをしたことがある生徒が6月調査時に比べ減少しているが油断はできない。 【意識すべき視点】 ・いじめが原因による自殺や不登校は決して他人事ではない ・いじめはいかなる理由があろうと許されないという価値観の共有 ・いじめを生まない教育環境（心理的安全性） →教室や教師が生徒にとっての安全基地 ・教師も人権意識をもち、言語環境を整える →不適切な指導の防止</p>	<p>④ アと回答する生徒 →100% (90.1%) 2学期…1学期の回答率を上回るもしくは100% (前回調査 91.9%)</p>																																																																
課題対応能力の育成 (教育効果を意識した特別活動の展開)	<p>⑤ 活動後の振り返りを重視し、各学年の生活上の課題を設定することで、より良い学校生活を探求させる。(主体性)</p> <p>⑥ 行事の目的について、生徒会執行部から丁寧に周知する。また、活動期間の中で、それぞれが振り返りを行う取組を企画・運営する。(自主性)</p>	<p>⑤ 充実した学校生活を送るために、学校生活上の課題を見付け、解決に向けて話し合い、行動に移すことができている。【生徒アンケート(7)】 クリスマス時期の生徒会執行部の取組から、正規の手続きを踏んで挑戦すれば、取組の幅を広げる可能性があることを実感したのではないかと考える。学級、学年にも波及することを期待している。(生徒の思いと教師の仕掛けのバランス)</p> <p>⑥ 学校行事や生徒会活動の目的を理解し、自分が努力すべき事を決めて粘り強く取り組むことができている。【生徒アンケート(8)】 2学期も生徒自身の実感が数値に反映されている。生徒の自主性・主体性の育成に繋がる活動への改善を今後も期待したい。 →発達支持的生徒指導を強力に推進 ★SDGs学習を進めていることから、学校として実践できるSDGsの取組はないか？</p>	<p>⑤ 1・2と回答する生徒 →80%以上 (81.5%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 27.7%→28.2%</p> <p>⑥ 1・2と回答する生徒 →80%以上 (87.6%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 46.1%→43.5%</p>																																																																
家庭や地域と連携・協働した活動の推進 (共助の意識の向上)	<p>⑦ 地域活動局を中心としたボランティア活動の取組 →人のために役立つ経験を通して、勤労観や職業観の形成につなげる</p>	<p>⑦ 明野中学校の一員として、地域へのボランティア活動を通して、積極的に地域や社会に関わることができている。【生徒アンケート(9)】 地域行事が少しずつ再開され、生徒の地域行事への参加が復活した。今後は学校運営協議会を介して、地学協働を意識したボランティア活動や教育活動の充実に繋がれば良いと考える。</p>	<p>⑦ 1・2と回答する生徒 →80%以上 (34.3%) 2学期…設定変えなし (前回調査 33.8%)</p>																																																																
人間関係育成能力 (不登校の防止・解消)	<p>① 支え合おうとする学級・学年集団づくり (支持的風土) ・生徒間の絆づくり (自己理解、相互理解、多様性・個性の尊重、自己肯定感の向上) ・安心して生活できる居場所づくり (自己有感の向上) ・環境づくり (心理的安全性につながる学年風土の醸成=挑戦、失敗できる) →生徒理解の強化、中1ギャップ、学校不適應の兆候の早期発見</p> <p>(再掲) 【ほっとで測定できるコミュニケーションスキル (13要素)】 ○礼儀…挨拶や「してもらったこと」への感謝ができるか ○表明…意見や欲求を主張できるか ○参加…対人参加や、仲間と協調することができるか ○配慮…相手への配慮や新設、援助ができるか ○拒否…他者からの無理な働きかけに「やめて」と言うことができるか ○緊張…緊張や不安によって話せなくなることがあるか ○称賛…相手をほめたり喜ばせたりすることができるか ○遵守…規則や秩序を維持したり、不適切な行為を謝罪したりできるか ○忠告…社会的な望ましさを促進する働きかけができるか ○自律…協調性や我慢などの自律的な行動ができるか ○率先…集団をまとめることなど、リーダーシップのとれた行動ができるか ○学業…学習に関連した望ましい行動ができるか ○相談…相談や自己開示ができるか</p> <p>【上記の要素の組み合わせで把握できる全体的な特徴 (3因子)】 ●関係維持…他者と良好な関係を保ち励まし合う力 ●仲間強化…仲間と高め合ったり、影響力のある発言をしたりする力 ●自己統制…衝動性を抑え、良識に基づく意思決定を行う力</p>	<p>① コミュニケーションスキルの各要素からまとめられた因子 (「関係維持」「仲間強化」「自己統制」)の経時比較【子ども理解支援ツールほっと】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">【ほっと各因子の偏差値】</th> </tr> <tr> <th></th> <th>関係維持</th> <th>仲間強化</th> <th>自己統制</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td>48.8</td> <td>48.8</td> <td>48.3</td> </tr> <tr> <td>1-1</td> <td>47.8</td> <td>48.3</td> <td>48.2</td> </tr> <tr> <td>1-2</td> <td>49.8</td> <td>49.4</td> <td>48.4</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>53.8</td> <td>51.3</td> <td>51.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(50.4)</td> <td>53.8</td> <td>53.0</td> </tr> <tr> <td>2-1</td> <td>51.4</td> <td>52.1</td> <td>51.9</td> </tr> <tr> <td>2-2</td> <td>53.0</td> <td>50.8</td> <td>53.4</td> </tr> <tr> <td>2-3</td> <td>46.8</td> <td>49.2</td> <td>47.7</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>54.1</td> <td>53.8</td> <td>54.6</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(49.9)</td> <td>50.2</td> <td>49.6</td> </tr> <tr> <td>3-1</td> <td>53.9</td> <td>52.4</td> <td>53.3</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(52.6)</td> <td>51.8</td> <td>53.5</td> </tr> <tr> <td>3-2</td> <td>54.4</td> <td>55.3</td> <td>55.9</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(53.0)</td> <td>50.7</td> <td>52.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>上段 : 1学期末調査 (): 前年度2学期末調査</p> <p>3因子を構成する13要素の数値にも目を向け、生徒の実態及び学級学年経営の振り返りと2学期に行う働きかけの確認(学年部会で話題に!)をお願いしたい。 2年生については学年単位の、3年生については学級毎の経年比較も確認を!</p>	【ほっと各因子の偏差値】					関係維持	仲間強化	自己統制	1年	48.8	48.8	48.3	1-1	47.8	48.3	48.2	1-2	49.8	49.4	48.4	2年	53.8	51.3	51.0		(50.4)	53.8	53.0	2-1	51.4	52.1	51.9	2-2	53.0	50.8	53.4	2-3	46.8	49.2	47.7	3年	54.1	53.8	54.6		(49.9)	50.2	49.6	3-1	53.9	52.4	53.3		(52.6)	51.8	53.5	3-2	54.4	55.3	55.9		(53.0)	50.7	52.8	<p>① 左記因子の偏差値 →50以上</p> <p>ほっと実施後、左記のデータを更新する</p>
【ほっと各因子の偏差値】																																																																			
	関係維持	仲間強化	自己統制																																																																
1年	48.8	48.8	48.3																																																																
1-1	47.8	48.3	48.2																																																																
1-2	49.8	49.4	48.4																																																																
2年	53.8	51.3	51.0																																																																
	(50.4)	53.8	53.0																																																																
2-1	51.4	52.1	51.9																																																																
2-2	53.0	50.8	53.4																																																																
2-3	46.8	49.2	47.7																																																																
3年	54.1	53.8	54.6																																																																
	(49.9)	50.2	49.6																																																																
3-1	53.9	52.4	53.3																																																																
	(52.6)	51.8	53.5																																																																
3-2	54.4	55.3	55.9																																																																
	(53.0)	50.7	52.8																																																																
学年																																																																			

キャリアプランニング能力	② 発達段階や生徒の実態を踏まえた、キャリア学習の実施 ・職業観、勤労観の形成（学活、道徳、総合） ・将来設計や進路選択を通じた意思決定（進路指導）	② 自分の進路に対する関心が高まっている 【生徒アンケート(10)】 学年ごとの回答率 ※（ ）は「1」と回答 ・1年生…56.6%→61.2%（18.3%→32.2%） ・2年生…57.8%→62.1%（29.8%→27.0%） ・3年生…95.2%→100%（65.0%→82.6%） 学年が上がるにつれて「1（当てはまる）」の回答の割合が高くなっている。特に2学期は3年生の回答率が大きく変化した。進路実現の取組が本格化していることも一因である。今年度は職場体験が3年ぶりに実施でき、2年生の意識にも変化があったようである。	② 1・2と回答する生徒 →80%以上(72.3%) 2学期…1の回答の割合を向上させる 38.3%→44.6%
--------------	--	---	---

各校務分掌、学年へ…上記の検証を踏まえ、次年度の取組について協議いただくようお願いいたします。

【実施スケジュール】

月	学校行事	学 習	生 活	(生徒会)	学 年(学級)
4	入学式 参観日 PTA 総会 (今年度は書面会議)	全国学力・学習状況調査 市統一学力検査(CRT) ほっかいどうチャレンジテスト(前年度問題)	情報モラル指導①	生徒会説明会・認証式 全協・常任委員会	学級・学年開き(組織づくり) 修学旅行準備に係る3学年の取組
5	二者懇談 修学旅行 体育大会 防災訓練(火災)	自校採点に基づく授業改善 研修講座受講	生活意識調査①	体育大会 全協・常任委員会	体育大会準備に係る各学年の取組 体験学習準備に係る1学年の取組
6	中体連 体験学習 期末テスト 学級懇談	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 新体力テスト① ICTミニ研修	教育相談アンケート 情報モラル指導② 防犯教室	中体連壮行会	進路ガイダンス 教育相談
7	宿泊研修 参観日 学校評価(生徒アンケート) 学校評議員会①	ほっかいどうチャレンジテスト(1学期末) →学習の振り返り、学びなおし 校内集計の検証に基づく体育授業改善	いじめアンケート① 性教育	いじめ問題子どもサミット 全協	教育相談 三者懇談 ほっと 宿泊研修準備に係る2学年の取組 高校体験入学(3年)
8				全協・常任委員会	
9	学校祭 中間テスト 防災訓練(地震) 担振防災教育デー		生活意識調査②	学校祭	学校祭準備に係る各学年の取組
10	生徒会役員選挙	命の授業 校内研修(研究授業)	情報モラル指導③	全協・常任委員会	教育相談 職業調べ(2年)
11	生徒総会 進路説明会 職業 体験 期末テスト 三者懇談	新体力テスト② 全国学力・学習状況調査の結果公表	教育相談アンケート(3年) いじめアンケート②		職業体験 or SDGs 学習(2年) 進路説明会
12	三者懇談 学校評価(生徒アンケート) 学校評議員会②	ほっかいどうチャレンジテスト(2学期末) →学習の振り返り、学びなおし		全協・常任委員会	三者懇談(3年) ほっと
1	新入生保護者説明会	次年度計画策定	次年度計画策定	次年度計画策定	教育相談 学級・学年経営反省
2	私立高入試 新入生体験入学 学年末テスト(1・2年) 新年度計画会議		教育相談アンケート(1・2年)	全協・常任委員会	新入生体験入学受入(1年)
3	公立高入試 学級懇談(1・2年) 卒業式 学校評議員会③			送別集会	